

# 調査結果の概要

## 発育状態

### 1 平均体格

平成14年度の小学校、中学校、高等学校及び幼稚園における児童、生徒、及び幼児の身長、体重及び座高の平均値を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

#### (1) 各年齢間の体格差

##### ア 身長

男子は、11歳と12歳の間が7.6cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.9cmと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が6.7cmと最も大きく、15歳と16歳の間では16歳の方が0.1cm低くなっている。

##### イ 体重

男子は、11歳と12歳の間が5.9kgと最も大きく、16歳と17歳の間が1.1kgと最も小さい。女子は、11歳と12歳の間が5.6kgと最も大きく、16歳と17歳の間が0.5kgと最も小さくなっている。

##### ウ 座高

男子は、11歳と12歳の間が4.0cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.3cmと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が3.6cmと最も大きく、15歳と16歳との間では16歳の方が0.3cm低くなっている。

表1 年齢別、男女別体格の平均値と男女差

区 分		身 長 (cm)			体 重 (kg)			座 高 (cm)		
		男	女	差	男	女	差	男	女	差
幼 稚 園	5 歳	111.2	110.0	1.2	19.1	18.6	0.5	62.4	61.6	0.8
小 学 校	6 歳	116.8	116.5	0.3	22.0	21.4	0.6	65.2	64.9	0.3
	7 歳	122.7	122.2	0.5	24.6	24.2	0.4	67.9	67.6	0.3
	8 歳	127.9	128.2	0.3	27.5	27.3	0.2	70.3	70.3	-
	9 歳	134.5	134.1	0.4	31.7	30.4	1.3	73.3	73.2	0.1
	10歳	139.1	140.7	1.6	34.4	34.8	0.4	75.3	76.2	0.9
	11歳	146.0	147.4	1.4	40.2	39.8	0.4	78.3	79.8	1.5
中 学 校	12歳	153.6	152.5	1.1	46.1	45.4	0.7	82.3	82.8	0.5
	13歳	160.9	156.1	4.8	50.9	48.7	2.2	86.0	84.6	1.4
	14歳	166.7	157.2	9.5	56.2	51.2	5.0	89.1	85.1	4.0
高 等 学 校	15歳	169.7	157.9	11.8	61.3	52.6	8.7	90.8	85.7	5.1
	16歳	170.7	157.8	12.9	62.9	53.2	9.7	91.5	85.4	6.1
	17歳	171.6	158.6	13.0	64.0	53.7	10.3	91.8	86.0	5.8

(注)1 「差」は、男子の数値から女子の数値を差し引いたものである。

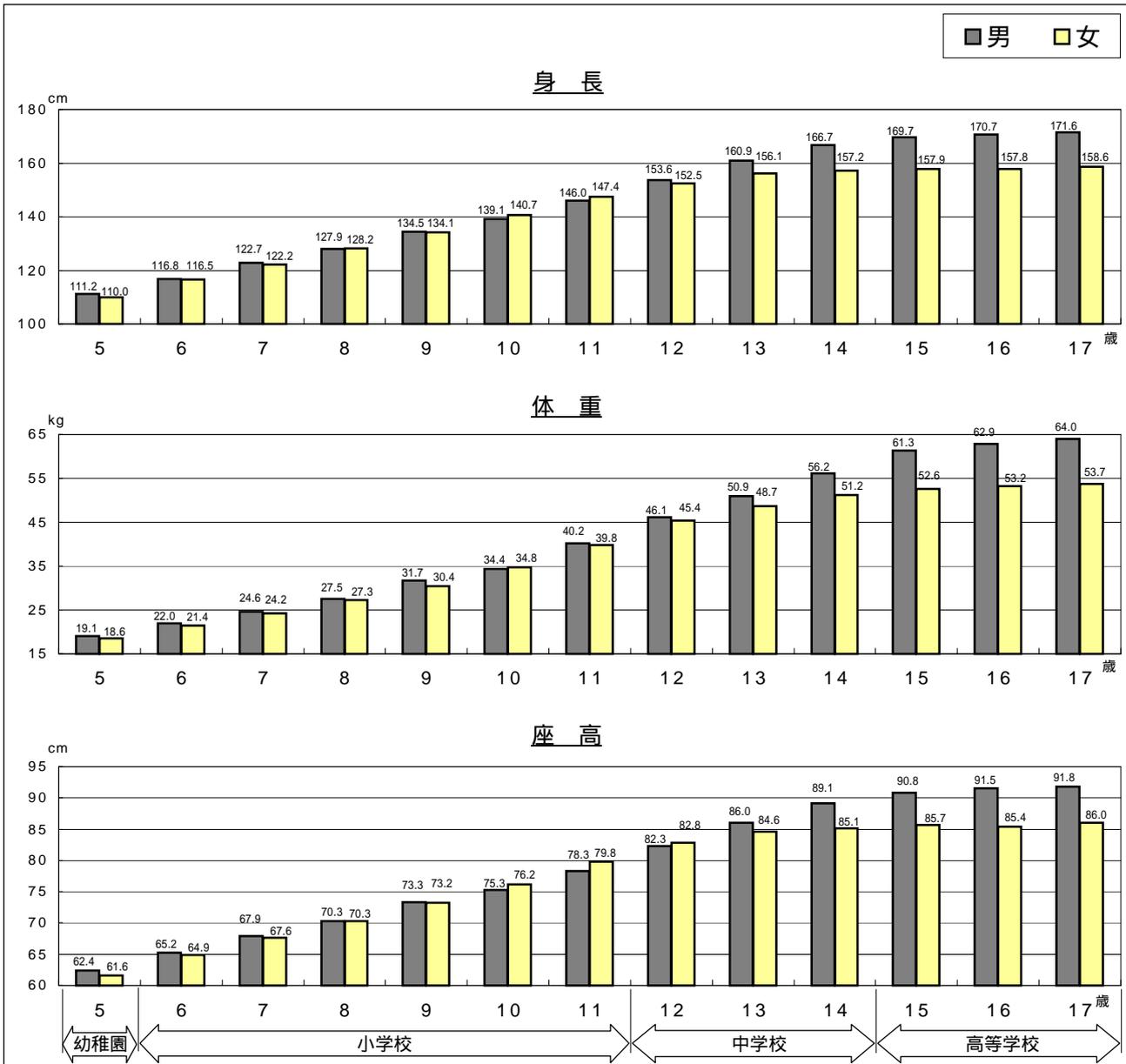
(注)2 網掛の部分は調査実施以来最高を示す。

#### (2) 男女の体格差

女子が男子を上回る発育年齢は、身長では8、10、11歳、体重では10歳、座高では10、11、12歳で、その差の最大は、身長では10歳の1.6cm、体重では10歳の0.4kg、座高では11歳の1.5cmとなっている。また、この時期を過ぎると男子が女子を上回り、17歳での差は、身長13.0cm、体重10.3kg、座高5.8cmとなっている。

(図1、表1、別表1参照)

図1 男女別年齢別平均体格



2 25年前の昭和52年度(親の世代)の体格との比較

平成14年度と25年前の昭和52年度の体格を比較してみると、男子6歳と8歳の座高、女子17歳の体重を除き、身長、体重、座高すべてで向上している。

(1) 17歳(高校3年生)の体格の比較

17歳の体格を比較すると、25年前に比べて男子は身長が1.7cm高く、体重が3.1kg多く、座高が1cm高くなっている。女子は身長が1.4cm高く、体重が0.1kg少なく、座高が0.9cm高くなっている。

(表2、別表2参照)

(2) 体格差の最も大きい年齢

25年前と比べ最も差の大きい年齢は、男子は身長12歳、体重12歳、座高13歳となっている。女子は身長9歳、10歳、体重12歳、座高9歳、10歳、11歳となっている。

表2 25年前の体格との比較

区 分			身 長 (cm)			体 重 (kg)			座 高 (cm)		
			平成 14年度	昭 和 52年度	差	平成 14年度	昭 和 52年度	差	平成 14年度	昭 和 52年度	差
男	幼稚園	5歳	111.2	...	...	19.1	...	...	62.4	...	...
	小 学 校	6歳	116.8	115.6	1.2	22.0	20.8	1.2	65.2	65.3	0.1
		7歳	122.7	121.4	1.3	24.6	23.1	1.5	67.9	67.9	-
		8歳	127.9	127.5	0.4	27.5	26.0	1.5	70.3	70.5	0.2
		9歳	134.5	131.9	2.6	31.7	28.9	2.8	73.3	71.9	1.4
		10歳	139.1	137.0	2.1	34.4	32.1	2.3	75.3	73.9	1.4
		11歳	146.0	142.9	3.1	40.2	36.4	3.8	78.3	76.4	1.9
	中 学 校	12歳	153.6	150.4	3.2	46.1	41.1	5.0	82.3	80.3	2.0
		13歳	160.9	157.9	3.0	50.9	46.4	4.5	86.0	83.8	2.2
		14歳	166.7	163.8	2.9	56.2	52.2	4.0	89.1	87.2	1.9
	高等学校	15歳	169.7	167.1	2.6	61.3	56.7	4.6	90.8	89.2	1.6
		16歳	170.7	168.9	1.8	62.9	59.2	3.7	91.5	89.8	1.7
		17歳	171.6	169.9	1.7	64.0	60.9	3.1	91.8	90.8	1.0
	女	幼稚園	5歳	110.0	...	...	18.6	...	...	61.6	...
小 学 校		6歳	116.5	115.1	1.4	21.4	20.3	1.1	64.9	64.7	0.2
		7歳	122.2	120.7	1.5	24.2	22.5	1.7	67.6	67.3	0.3
		8歳	128.2	126.3	1.9	27.3	25.4	1.9	70.3	69.9	0.4
		9歳	134.1	132.1	2.0	30.4	28.5	1.9	73.2	71.6	1.6
		10歳	140.7	138.7	2.0	34.8	32.7	2.1	76.2	74.6	1.6
		11歳	147.4	146.0	1.4	39.8	37.8	2.0	79.8	78.2	1.6
中 学 校		12歳	152.5	151.2	1.3	45.4	42.7	2.7	82.8	81.9	0.9
		13歳	156.1	154.9	1.2	48.7	46.9	1.8	84.6	83.7	0.9
		14歳	157.2	156.2	1.0	51.2	49.6	1.6	85.1	84.6	0.5
高等学校		15歳	157.9	156.4	1.5	52.6	51.8	0.8	85.7	84.9	0.8
		16歳	157.8	156.9	0.9	53.2	53.1	0.1	85.4	85.1	0.3
		17歳	158.6	157.2	1.4	53.7	53.8	0.1	86.0	85.1	0.9

### 3 25年前の発育量との比較

5歳から17歳まで12年間の発育量総計と年間発育量の最も大きい年齢について、現年度調査の17歳(昭和59年生まれ)と25年前調査の17歳(昭和34年生まれ)を比較すると次のとおりである。

#### (1) 発育量総計の比較

現年度17歳の発育量総計を25年前と比較すると、身長では男子0.8cm減、女子1.4cm減、体重では男子1.9kg増、女子1.2kg減、座高では男子0.1cm減、女子0.5cm減となっている。

#### (2) 年間発育量の最も大きい年齢

現年度17歳をみると、男子は身長、体重、座高共に12歳時の年間発育量が最も大きく、女子は身長は9歳時、体重は10歳時、座高は10歳時の年間発育量が最も大きい。

一方、25年前の17歳は、男子は身長、体重、座高共に11歳時の年間発育量が最も大きく、女子は身長は10歳時、体重は11歳時、座高は11歳時の年間発育量が最も大きい。

(図2、表3、別表5参照)

図2 年間発育量の25年前との比較

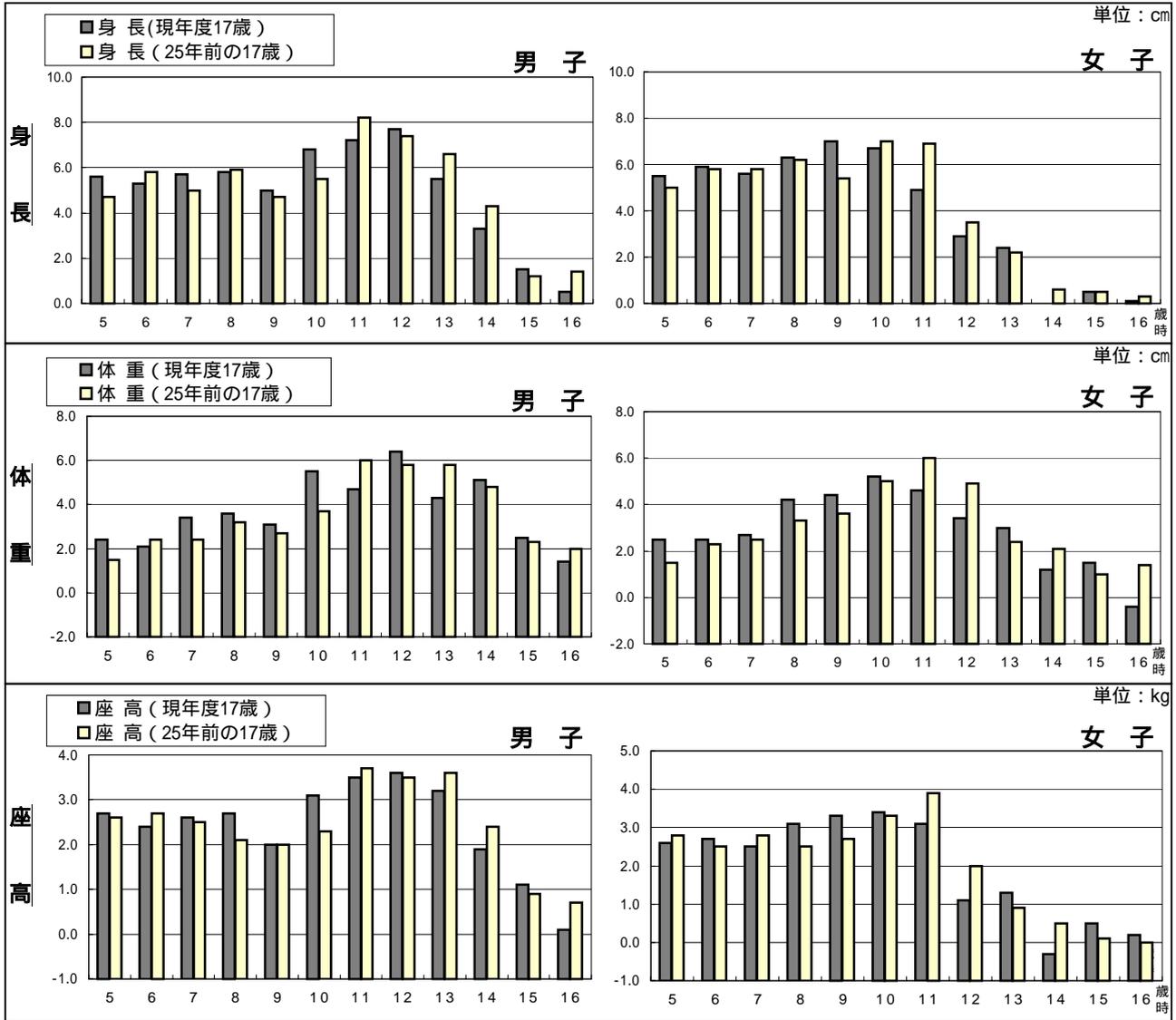


表3 年次別、男女別、発育量の比較

区分	男				女				
	5歳時の体格	17歳時の体格	発育量総計	年間発育量最大の年齢	5歳時の体格	17歳時の体格	発育量総計	年間発育量最大の年齢	
身長 cm	昭和34年度生まれ	109.2	169.9	60.7	11歳時	108.0	157.2	49.2	10歳時
	44	110.1	171.2	61.1	12歳時	109.4	158.2	48.8	9歳時
	54	110.8	171.6	60.8	11歳時	110.4	158.1	47.7	10歳時
	<b>59</b>	<b>111.7</b>	<b>171.6</b>	<b>59.9</b>	<b>12歳時</b>	<b>110.8</b>	<b>158.6</b>	<b>47.8</b>	<b>9歳時</b>
体重 kg	昭和34年度生まれ	18.3	60.9	42.6	11歳時	17.8	53.8	36.0	11歳時
	44	18.7	62.0	43.3	12歳時	18.4	52.7	34.3	10歳時
	54	19.1	63.0	43.9	11歳時	18.9	53.3	34.4	10、11歳時
	<b>59</b>	<b>19.5</b>	<b>64.0</b>	<b>44.5</b>	<b>12歳時</b>	<b>18.9</b>	<b>53.7</b>	<b>34.8</b>	<b>10歳時</b>
座高 cm	昭和34年度生まれ	61.8	90.8	29.0	11歳時	61.1	85.1	24.0	11歳時
	44	61.9	91.7	29.8	12歳時	61.5	85.4	23.9	10歳時
	54	62.6	92.0	29.4	11歳時	62.3	85.4	23.1	10歳時
	<b>59</b>	<b>62.9</b>	<b>91.8</b>	<b>28.9</b>	<b>12歳時</b>	<b>62.5</b>	<b>86.0</b>	<b>23.5</b>	<b>10歳時</b>

(注)1 年間発育量とは、例えば、34年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、昭和41年度調査6歳の者の体位から前年度調査5歳の者の体位を引いたものである。

(注)2 出生年度については、例えば、「34年度生まれ」とは、34年4月2日から翌年4月1日までに生まれた者をいう。

## 健康状態

### 1 疾病・異常の被患率状況

平成14年度の定期健康診断における児童、生徒及び幼児の各疾病・異常の被患率は、男女とも「う歯の者(処置完了者+未処置歯のある者)」が各学校種とも第1位を占め、被患率も幼稚園が59.09%、小学校77.05%、中学校78.27%、高等学校85.93%と他に比較して圧倒的に高くなっている。

第2位は各学校種とも「裸眼視力1.0未満の者」で、被患率は幼稚園が25.32%、小学校30.39%、中学校55.40%、高等学校が74.96%となっている。

(表4、別表3参照)

表4 主な疾病・異常被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	区分	%	区分	%	区分	%	区分	%
1	う 歯	59.09	う 歯	77.05	う 歯	78.27	う 歯	85.93
2	裸眼視力1.0未満	25.32	裸眼視力1.0未満	30.39	裸眼視力1.0未満	55.40	裸眼視力1.0未満	74.96
3	口腔咽喉疾患・異常	2.15	その他の歯疾患	13.60	その他の歯疾患	10.37	その他の歯疾患	4.14
4	鼻・副鼻腔疾患	1.99	鼻・副鼻腔疾患	9.16	鼻・副鼻腔疾患	7.57	肥満傾向	3.36
5	その他の歯疾患	1.38	耳疾患	3.76	その他の眼疾患・異常	4.34	心電図異常	3.12

### 2 主な疾病・異常被患率の推移

#### (1) 肥満傾向

平成14年度の「肥満傾向」の者(学校医から肥満傾向と判定された者)の割合は、幼稚園が0.13%、小学校が1.26%、中学校が1.81%、高等学校が3.36%となっており、前年度に比べ幼稚園、小学校で減少、中学校、高等学校で増加している。

#### (2) 鼻・副鼻腔疾患

平成14年度の「鼻・副鼻腔疾患」(蓄のう症、アレルギー性鼻炎等)の被患率は、幼稚園が1.99%、小学校が9.16%、中学校が7.57%、高等学校が2.62%となっており、高等学校を除く各学校種別において前年度より増加している。

#### (3) 寄生虫卵保有(幼稚園及び小学校のみ)

平成14年度の「寄生虫卵保有者」の割合は、幼稚園が0.48%、小学校が1.44%となっており、前年度に比べ小学校で減少、幼稚園で増加している。

#### (4) 心電図異常(6歳、12歳及び15歳時のみ)

平成14年度の「心電図異常」の者の割合は、小学校が3.10%、中学校が3.39%、高等学校が3.12%となっており、各学校種別において前年度より増加している。

#### (5) ぜん息

平成14年度の「ぜん息」の被患率は、幼稚園が0.61%、小学校が1.10%、中学校が1.22%、高等学校が0.74%となっており、前年度に比べ、小学校、中学校で減少し、幼稚園、高等学校で増加している。

(別表3・4参照)

(6) う 歯

「う歯」の被患率について過去の推移をみると、小・中・高等学校は多少の増減はあるが8割以上かそれに近い高い率となっている。

また、平成14年度の被患率を前年度と比べると、幼稚園で7.42ポイント、小学校で4.13ポイント、中学校で3.77ポイント、高等学校で2.47ポイントそれぞれ減少している。

(表5参照)

表5 う歯の処置完了状況等の推移

単位：%

区 分	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	
幼稚園	計	56.43	78.48	77.13	75.01	79.86	69.62	60.71	69.96	66.51	59.09
	処置完了者	24.46	27.31	29.79	26.17	32.50	26.62	26.02	30.84	29.05	20.82
	未処置歯のある者	31.98	51.17	47.35	48.84	47.36	42.99	34.69	39.12	37.46	38.27
小学校	計	92.46	86.11	87.88	87.72	88.74	86.32	86.26	80.02	81.18	77.05
	処置完了者	35.10	32.11	36.58	36.47	35.58	36.93	39.14	34.16	36.84	33.20
	未処置歯のある者	57.36	54.01	51.30	51.24	53.16	49.39	47.11	45.85	44.34	43.84
中学校	計	92.74	92.01	90.84	90.50	88.15	88.83	84.25	81.30	82.04	78.27
	処置完了者	44.15	43.86	44.35	47.00	47.34	46.48	48.87	44.21	45.12	42.00
	未処置歯のある者	48.59	48.15	46.49	43.50	40.80	42.35	35.38	37.08	36.92	36.27
高等学校	計	95.87	91.55	91.31	95.02	93.59	89.12	91.88	88.08	88.40	85.93
	処置完了者	42.06	42.37	42.03	49.69	53.01	47.22	51.30	51.16	49.40	49.52
	未処置歯のある者	53.80	49.19	49.28	45.33	40.57	41.91	40.59	36.93	39.00	36.41

(注) 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

(7) 裸眼視力

「裸眼視力1.0未満の者」の被患率についての過去の推移をみると、幼稚園・小学校・中学校・高等学校でそれぞれ増減を繰り返している。

また、平成14年度の被患率を前年度と比べると、幼稚園で9.76ポイント増加、小学校で3.24ポイント増加、中学校で0.25ポイント減少、高等学校で0.33ポイント減少している。

(表6参照)

表6 裸眼視力1.0未満の者の推移

単位：%

区 分	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	
幼稚園	計	28.11	39.97	20.54	27.67	5.06	9.96	7.63	47.97	15.56	25.32
	1.0未満0.7以上	18.65	26.14	13.54	24.20	3.26	6.67	5.64	31.20	11.66	15.62
	0.7未満0.3以上	8.80	13.35	6.73	3.02	1.80	2.97	1.90	15.33	3.65	8.58
	0.3未満	0.67	0.48	0.27	0.45	-	0.32	0.09	1.43	0.25	1.12
小学校	計	28.08	26.46	28.05	28.42	27.67	29.65	28.00	27.71	27.15	30.39
	1.0未満0.7以上	11.47	10.63	11.14	10.60	10.49	11.78	10.50	10.70	10.37	11.94
	0.7未満0.3以上	10.29	9.86	10.83	11.00	11.07	11.01	10.86	10.84	10.47	11.83
	0.3未満	6.32	5.97	6.08	6.81	6.11	6.86	6.65	6.17	6.31	6.62
中学校	計	52.42	54.80	50.31	56.53	55.30	57.83	53.01	58.36	55.65	55.40
	1.0未満0.7以上	10.19	10.56	9.93	12.38	11.05	10.77	9.32	11.36	11.13	9.83
	0.7未満0.3以上	17.42	19.05	17.52	17.76	18.66	18.30	18.75	20.32	20.87	17.49
	0.3未満	24.82	25.19	22.86	26.39	25.59	28.75	24.93	26.68	23.65	28.08
高等学校	計	67.01	66.03	65.99	75.02	60.70	68.63	71.46	74.26	75.29	74.96
	1.0未満0.7以上	11.65	10.90	11.27	14.19	9.60	10.39	9.56	10.04	8.31	8.96
	0.7未満0.3以上	18.34	16.88	15.43	18.95	16.53	15.85	15.03	15.18	14.48	13.79
	0.3未満	37.02	38.24	39.30	41.88	34.58	42.39	46.87	49.05	52.50	52.20

(注) 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

図3 う歯の被患率の推移

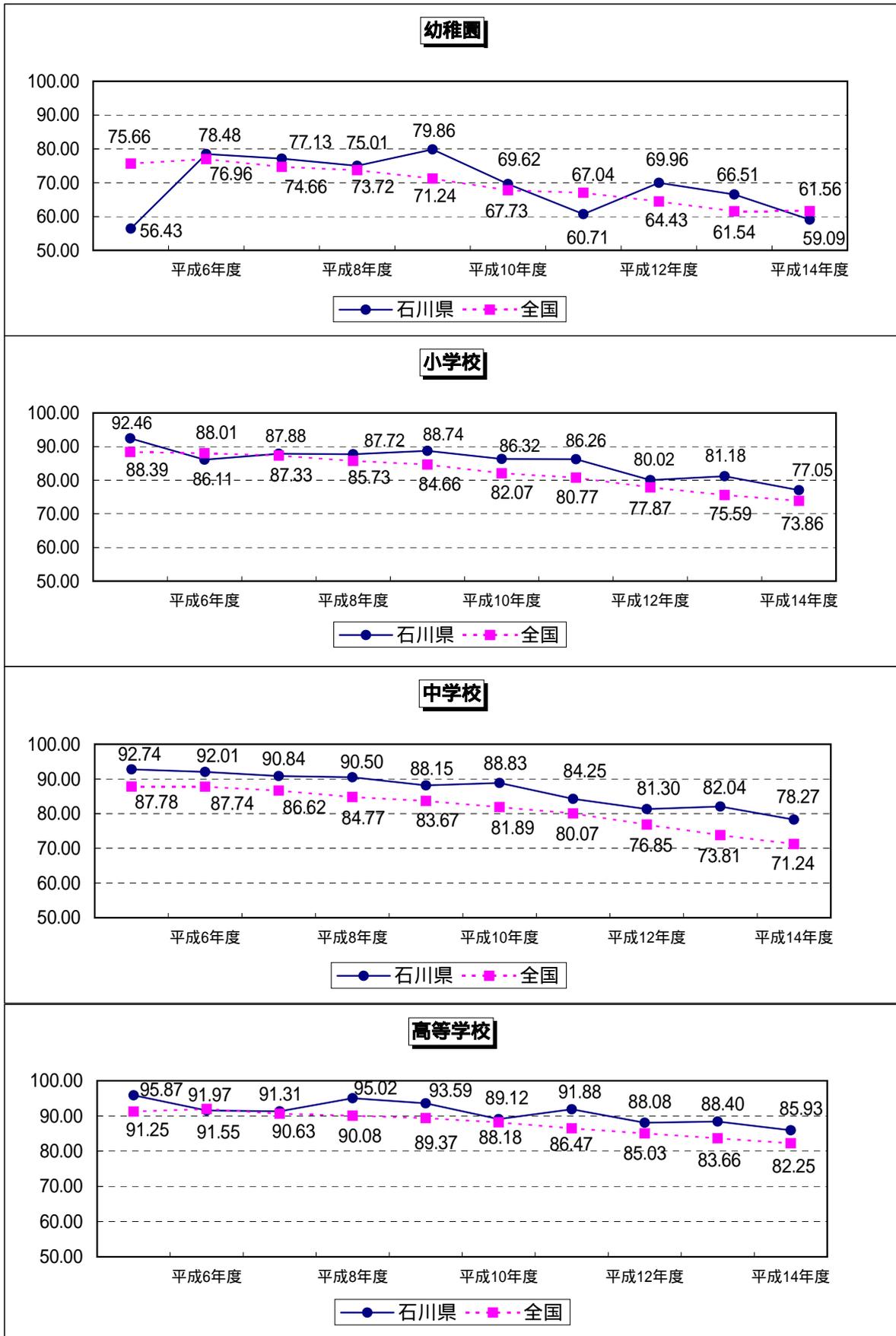
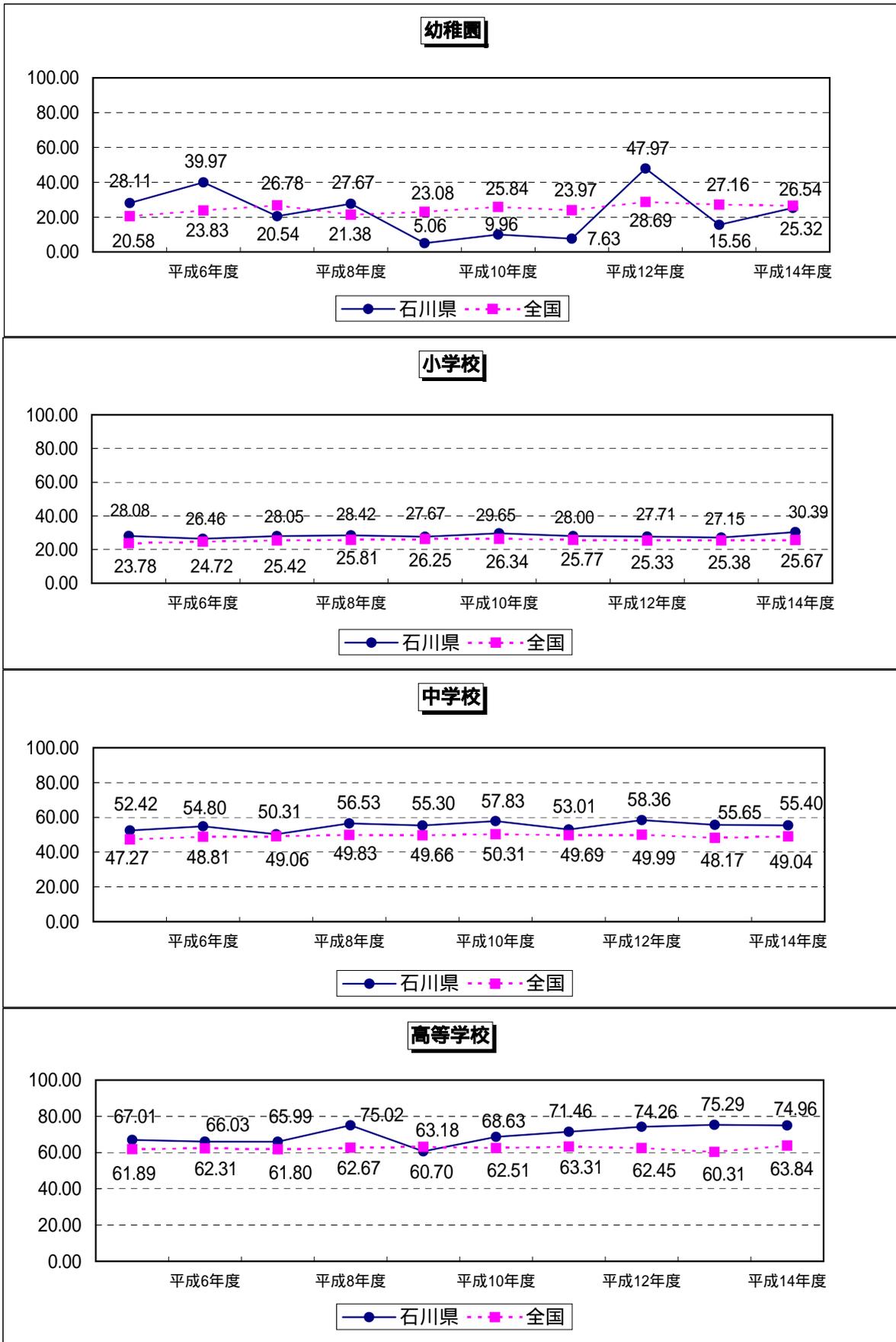


図4 裸眼視力1.0未満の者の推移



# 全国値との比較

## 1 発育状態

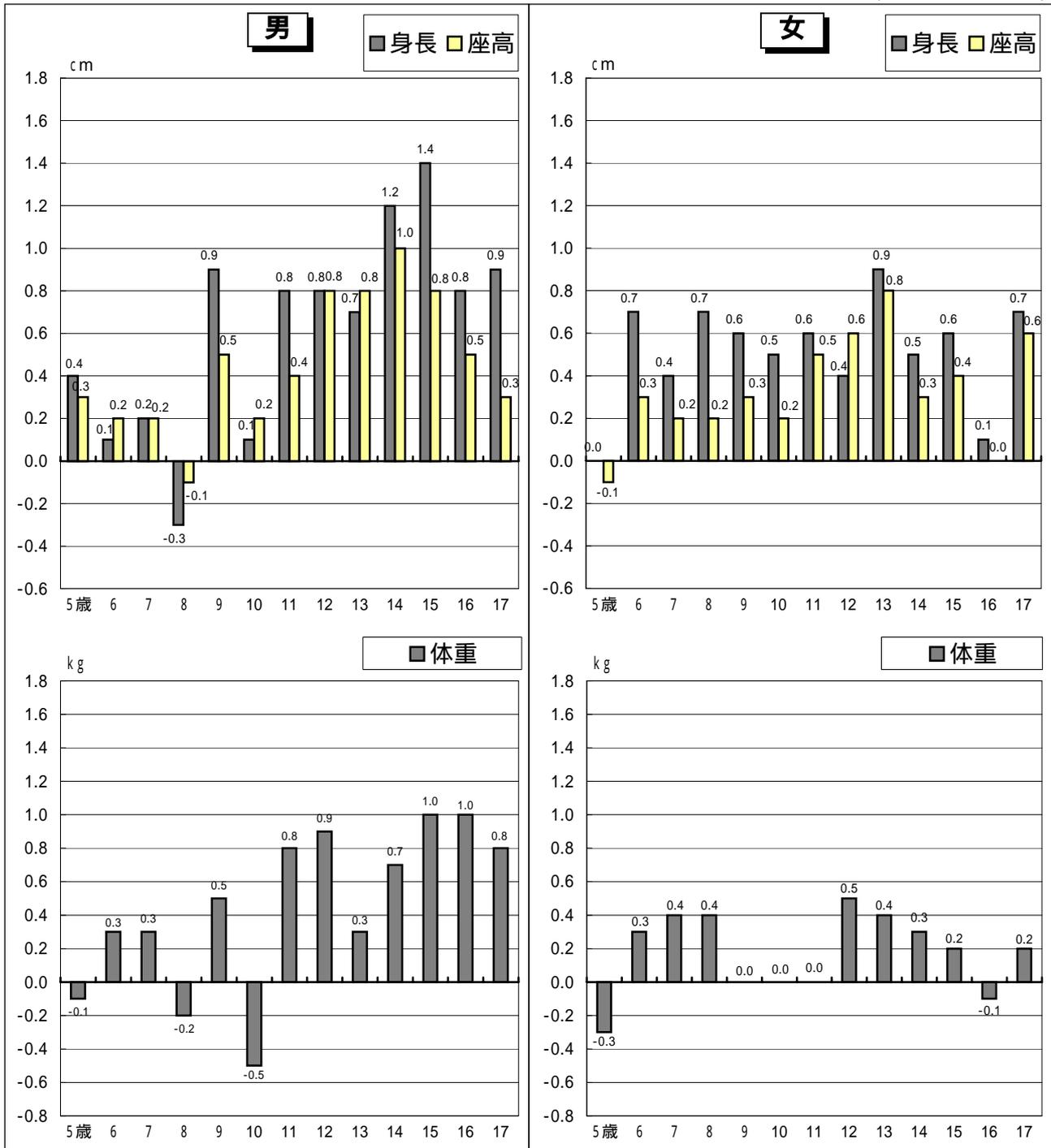
### (1) 全国平均体格との差

身長では、男子が8歳を除く全年齢、女子が5歳を除く全年齢で全国平均値を上回っている。体重では、男子が5、8、10歳を除く全年齢で、女子が5、9、10、11、16歳を除く全年齢で全国平均値を上回っている。座高では、男子が8歳を除く全年齢で、女子が5、16歳を除く全年齢で全国平均値を上回っている。

(図5、別表1参照)

図5 男女別、年齢別体格の全国平均値との差

(全国平均値 = 0.0)



(2) 17歳の身長の全国比較

17歳の身長を全国値と比較すると、石川県は男女ともに全国平均値を上回っており、男子は全国でも高くなっている。また、北海道から近畿地方は全国平均値を上回るどころが多く、中国、四国及び九州地方は下回るどころが多い傾向がある。

(図10参照)

(3) 発育量総計の全国平均値との比較

17歳の発育量総計を比較すると、男子は身長0.1cm、体重0.6kg全国平均値を上回り、座高は全国平均値と同じである。女子は体重0.3kg、座高は0.2cm全国平均値を上回り、身長は全国平均値と同じである。

(表7参照)

表7 男女別、発育量総計の全国平均値との比較

区 分	男						女						
	身長 (cm)	発育量 総計 (cm)	体重 (kg)	発育量 総計 (kg)	座高 (cm)	発育量 総計 (cm)	身長 (cm)	発育量 総計 (cm)	体重 (kg)	発育量 総計 (kg)	座高 (cm)	発育量 総計 (cm)	
石川県	平成 2 年度 5 歳時	111.7		19.5		62.9		110.8		18.9		62.5	
	14 17	171.6	59.9	64.0	44.5	91.8	28.9	158.6	47.8	53.7	34.8	86.0	23.5
全国	平成 2 年度 5 歳時	110.9		19.3		62.6		110.1		19.0		62.1	
	14 17	170.7	59.8	63.2	43.9	91.5	28.9	157.9	47.8	53.5	34.5	85.4	23.3

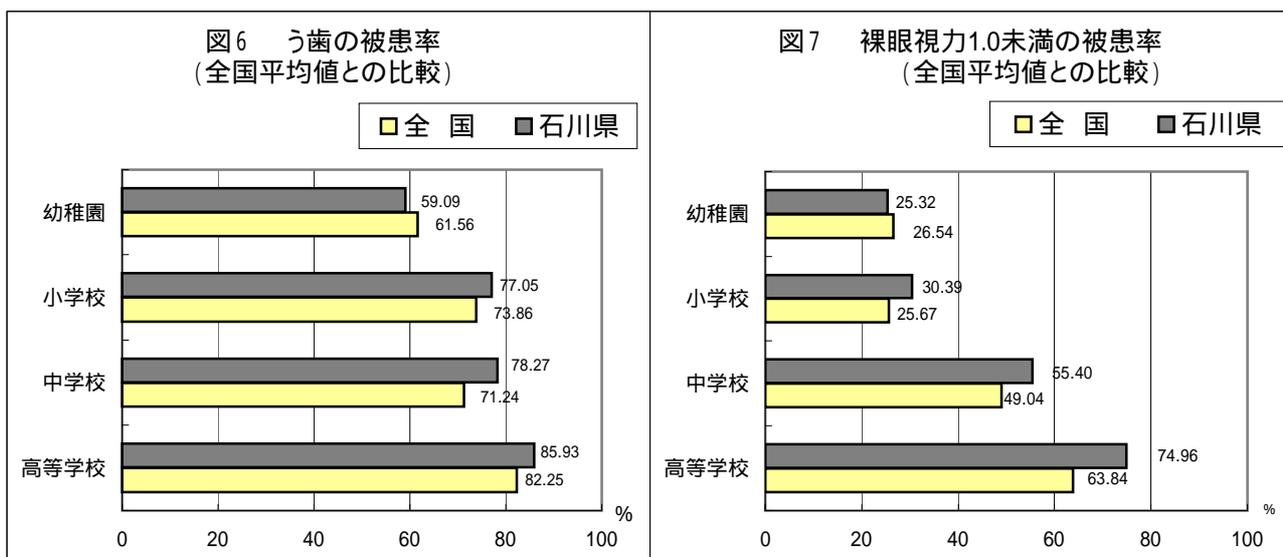
2 健康状態

(1) 主な疾病・異常被患率の全国平均値との比較

「う歯」の被患率では、小学校が3.19ポイント、中学校が7.03ポイント、高等学校が3.68ポイント全国平均値を上回り、幼稚園が2.47ポイント全国平均値を下回っている。

「裸眼視力1.0未満の者」の被患率では、小学校が4.72ポイント、中学校が6.36ポイント、高等学校が11.12ポイント全国平均値を上回り、幼稚園が1.22ポイント全国平均値を下回っている。

(図6・7、別表3参照)



(2) 永久歯のう歯等数の全国平均値との比較

12歳(中学1年生)の永久歯のう歯等数の県平均値は、1人当たり2.91本で、全国平均値2.28本を0.63本上回っている。

(別表3参照)

図8 17歳男子平均値の推移

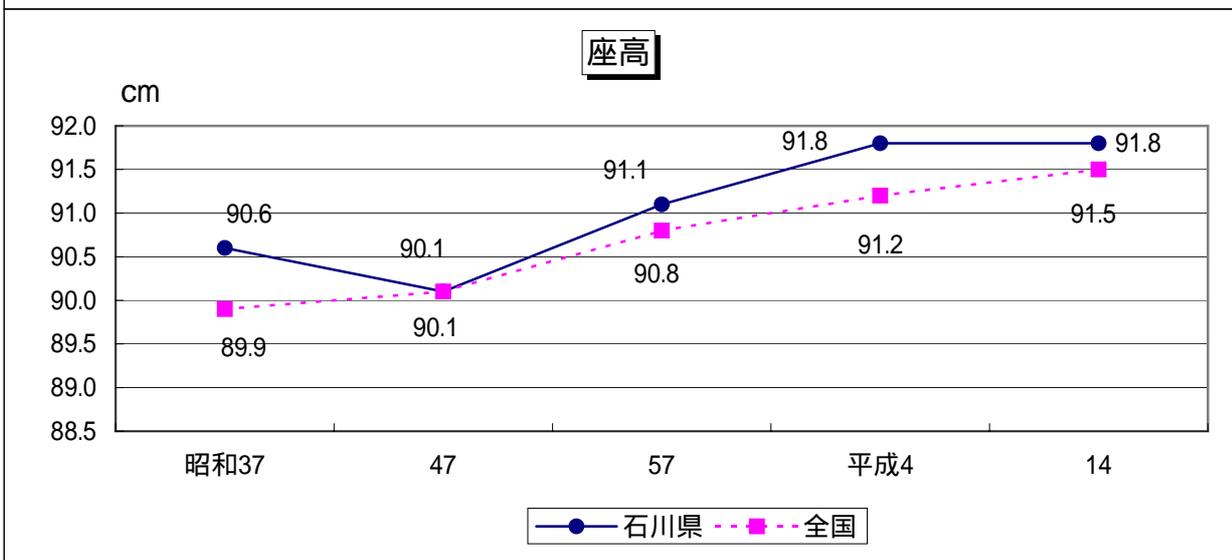
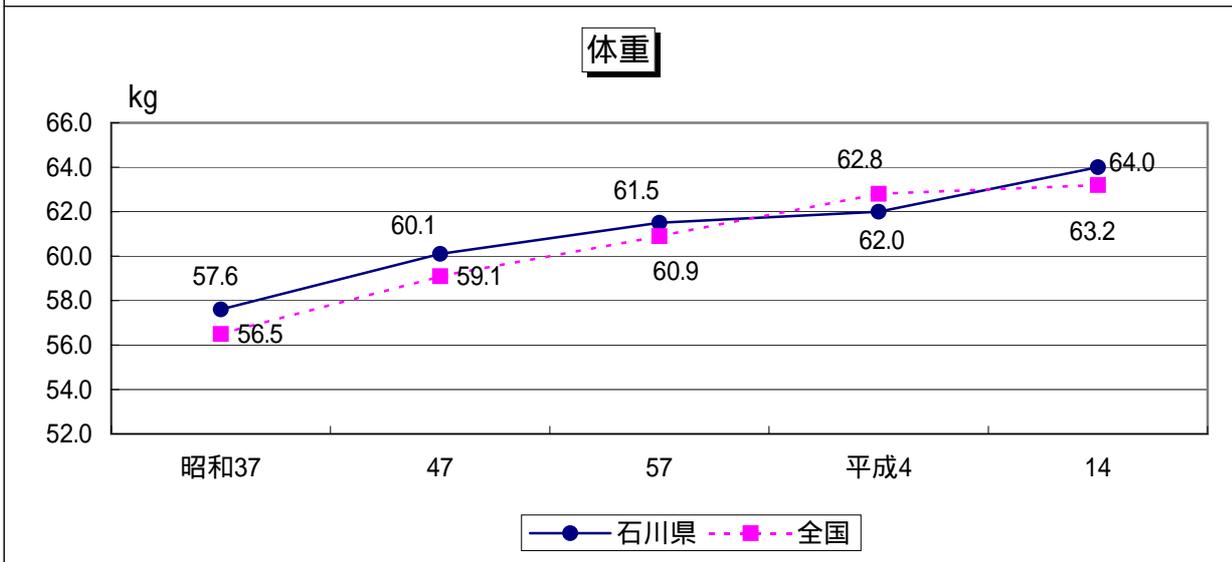
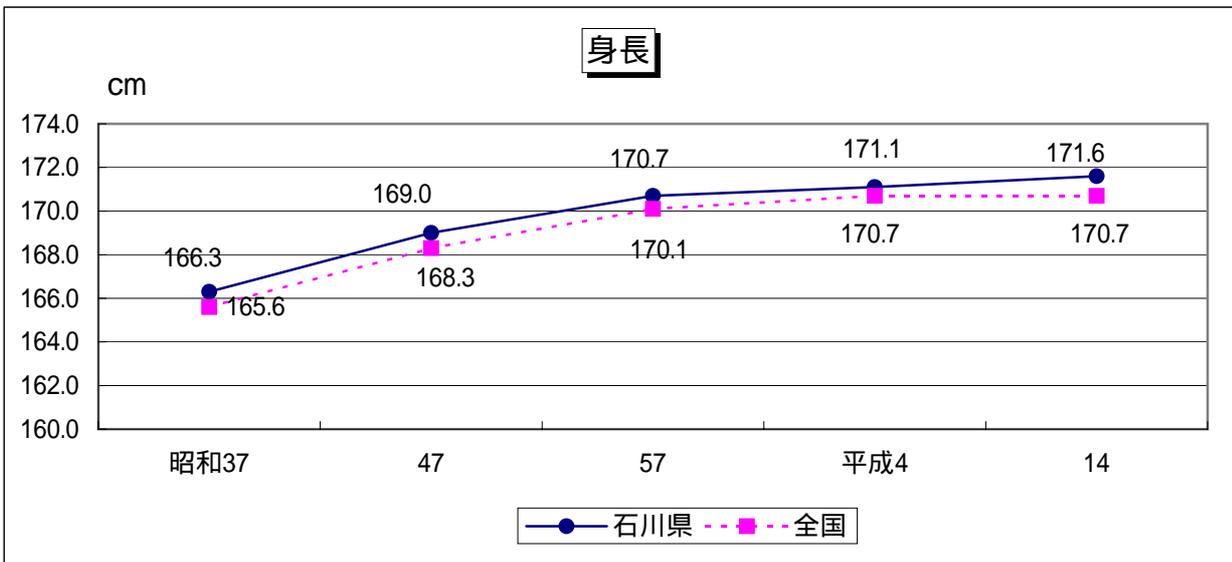


図9 17歳女子平均値の推移

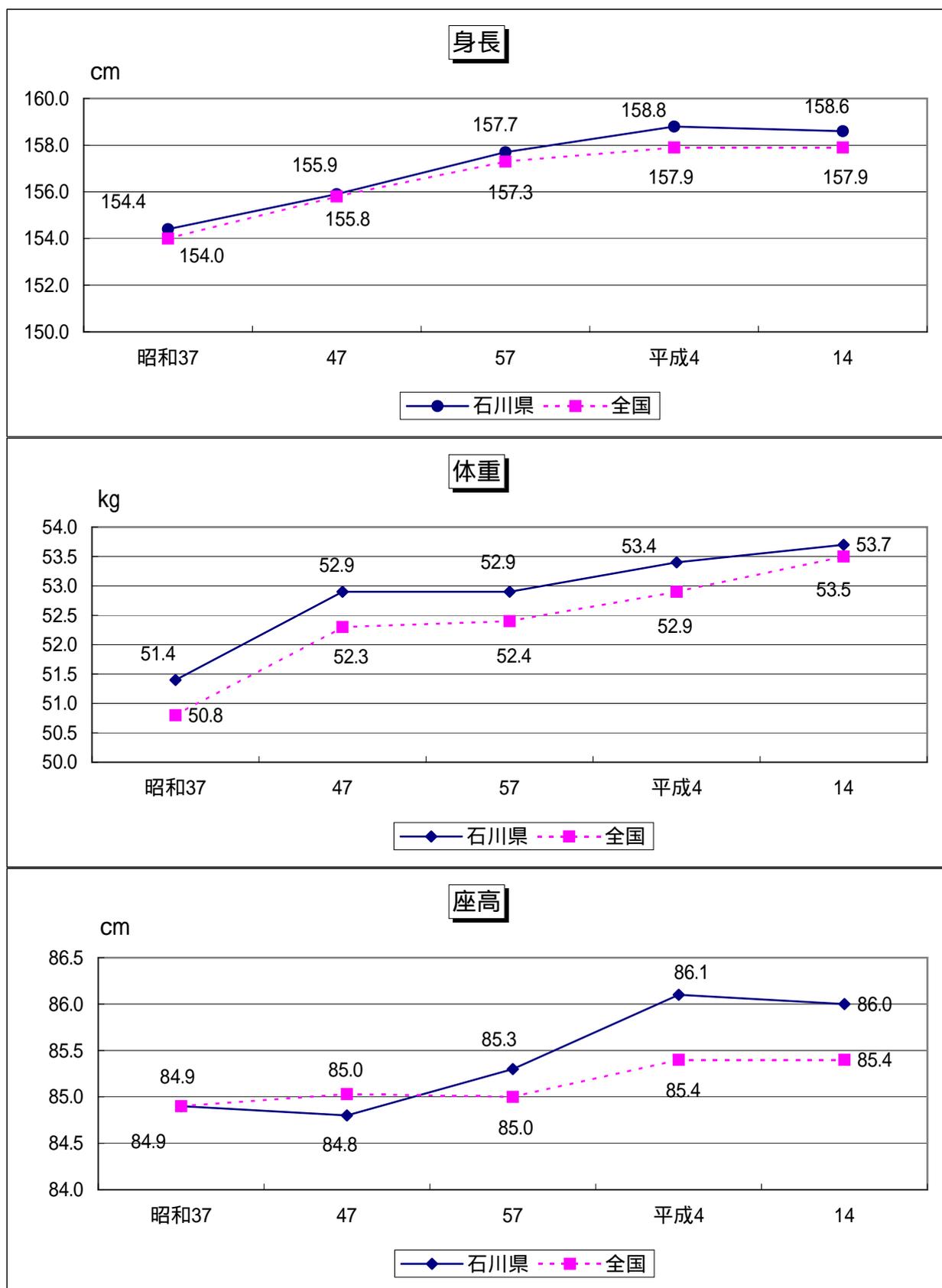


図 10 都道府県別 1 歳の平均身長

単位：cm

